

カムイミントル塾

エフ・イー佐々木社長

「次代を見据え果敢に挑戦を」

市内の若手経済人らが集まって八月二十三日、「カムイミントル塾」が旭川グランドホテルで開かれた。

日本財団特別顧問の日下公人氏と元国税庁長官の大武健一郎氏が講師となつて毎年開かれていて、八回目を迎えた今回は百二十人が聴講した。ゲストとして講演した地元企業エフ・イーの佐々木通彦社長は「アジアマーケットの可能性にかける」と題し、同社が韓国や台湾などアジアに

向けて行っている野菜洗浄機を中心とする農業機械の輸出の経験を具体的に話した。

佐々木社長は「私の会社は、もと親父がベニヤ板を製造するホットプレスを作っていたが、私が入社した一九八三年ごろは、東南アジアからの大量のベニヤ板の輸入に押され、看板と借金だけの会社になっていた」と前置きし、現在の野菜洗浄機製造と海外輸出に至るまでの経過を語った。初めて海外に出かけた



三十五歳の時、静岡が発祥のスーパ、ヤオハン

の香港店を見学したが「海外進出など私には関係ない」と思っていた。ホットプレス製造に見切りを付け、大学卒業後に就職した会社で携わった野菜洗浄機製作に取組んだ。国内で野菜洗浄機の有効性が認められつ

若手を中心にした経済人 120人が熱心に耳を傾けた

つあった二〇〇六年、韓国から大根洗浄機の注文が入り、初めて輸出事業を手掛けることに。佐々木社長は、「契約書の取り交わしなどはシエトロや運送会社と相談した。納品する機械の責任は韓国・釜山港までとし、韓国内の輸送については、買入れ会社の責任とした」などと分かりやすく説明した。しかし、輸出が順風満帆だったわけではない。韓国の電圧に合わせた仕様に変えたりなど、様々なトラブルを克服してきた。「日本で取った特許が邪魔になり輸出先の国で特許を申請できない例も

あるので、将来を見越し、日本と輸出先の国に同時に特許申請を出すという「アドバイスや、輸出先の言葉や英語で作ったカタログの重要性を

〈すべては安心品質のために〉

FRPタンクライニング 株式会社 カワテックス KAWATEX www.kawatex.co.jp/ ☎011-817-5252 全国危険物安全協会 事業者認定企業

強調した。

最後に「これからはASEAN(東南アジア諸国連合)が輸出先として重要になる。仕事目線で現地の現状を視察し、何ができるかをよく考え、次代を見据えて果敢に挑戦してください」と会場に呼びかけた。

日下氏は「北海道人よ野心を抱け」、大武氏は「人口爆発が続くアジアを取り込め」と題して講演。塾の締めくくりは、アフリカ開発銀行アジア代表東京事務所長の玉川雅之氏と大武氏、佐々木氏の三氏が「北限の経営者に求められる行動力」をテーマに鼎談(ていだん)を行った。